

広島県商工労働局所管公募型プロポーザル方式等選定委員会
(ひろしまブランド推進施策)

【マウンテンバイクを活用した観光振興業務】

議事要旨

広島県商工労働局所管
公募型プロポーザル方式等選定委員会
(ひろしまブランド推進施策)

■第1回選定委員会

日時	令和8年3月25日(水)
開催方法	書面開催
出席委員	伊藤 美佐(一般社団法人広島県観光連盟 プロダクト開発事業部プロデューサー) 山脇 千稔(広島県総務局 経営企画チーム 若者減少対策担当監) 横田 晋一(広島県地域政策局 中山間地域振興課長) 小谷 美紀(広島県農林水産局 森林保全課長) 石濱 真(広島県商工労働局 地域経済支援担当部長) 平野 奈都子(広島県商工労働局 観光課担当課長(観光魅力創造担当))
議題	マウンテンバイクを活用した観光振興業務にかかる審査要領・審査表
議事要旨	同意

■第2回選定委員会

日時	令和8年4月23日(木) 14:10~16:40
開催方法	参集
開催場所	県庁南館2階201会議室
出席委員	西田 恵(一般社団法人広島県観光連盟 広域周遊ルート開発部 部長) 山脇 千稔(広島県総務局 経営企画チーム 若者減少対策担当監) 梶島 洋介(広島県地域政策局 中山間地域振興課長)代理 田代 ひとみ(同課 参事) 小谷 美紀(広島県農林水産局 森林保全課長)代理 柿田 雅胤(同課 参事) 山崎 真紀(広島県商工労働局 地域経済支援担当部長) 木津 早苗(広島県商工労働局 観光課担当課長(観光魅力創造担当))
議題	マウンテンバイクを活用した観光振興業務にかかる審査
応募者	株式会社中国四国博報堂 A者 MTB活用社会推進協議会 B者 (代表企業)株式会社オリエンタルコンサルタンツ (構成企業)ヤマハ発動機株式会社 株式会社山守人 株式会社JPF 株式会社JTB広島支店 C者
議事要旨	提出された企画提案書をもとにプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、最優秀提案者としてMTB活用社会推進協議会を選定した。 評価基準に基づく評価項目別の総合値及び各委員の主な評価については、次のとおりである。

【各委員の主な評価】

A 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島ブランドづくりを視野に新たなツーリズムを創出しようとしている。 ・ コンセプトの設定やグラベルバイクなどのアイテム設定がしっかりしており、うまく刺さると客層の広がりにつながると期待できる。 ・ 広島ならではの強みを踏まえ、裾野を広げていくため、ターゲット層の確保に向けた手法が考えられている。 ・ ガイド育成に期待が持てる。 ・ 専門家の力を前面に出したものになっており、初心者層の呼び込みや問題が生じた際の対応などの面で不安がある。 ・ 具体的な企画が「グラベルバイク」導入の趣旨が強いように見受けられる。 ・ ターゲットの設定が曖昧である。 ・ コースの開発に懸念がある。 ・ 既存林道の活用を主とする場合、マウンテンバイクの魅力が限定的になる。
B 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域での実績を基に、コース造成で最も難しい部分を解決するための体制や手法を具体的に提案しており、実現性が高い提案である。 ・ 初心者層からというターゲット設定も、今後の発展を見据えており良い。 ・ 運営体制が構築されており、将来的な利用促進も視野に事業計画が立てられている。 ・ コース開発の支援にノウハウ・知見があり、ガイド育成についても経験があり、期待がもてる。 ・ マウンテンバイクコース造営においても実績が多く、評価できる。 ・ 広島が全国発のパイロットモデルになるよう、中長期的な視点に立った企画提案である。 ・ 方向性、実績ともに優れている。
C 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本来の事業目的と異なっているように見受けられた。 ・ 将来的に持続するマウンテンバイク体制構築の基礎となり得るのか判断が難しい。 ・ ツアー造成に知見・実績があるが、マウンテンバイクやコース開発の実績に懸念がある。 ・ 独自提案については、今年度実施することで効果が見込まれるか疑問である。 ・ マウンテンバイクの活用より観光振興に重点が置かれている感がある。 ・ 既存の観光資源を組み合わせた提案にとどまっており、マウンテンバイクそのものを楽しむ提案となっていればなお良かった。